

県教育委員会通知に示す土曜授業の内容例

■家庭・地域との連携による授業や学校行事

- ・保護者や地域住民等の外部人材の協力を得て実施する授業や学校行事
- ・総合的な学習の時間等における校外学習や体験活動
- ・教員OBや大学生など地域住民による学習支援・協力による学習機会の提供

■保護者や地域住民等への公開授業

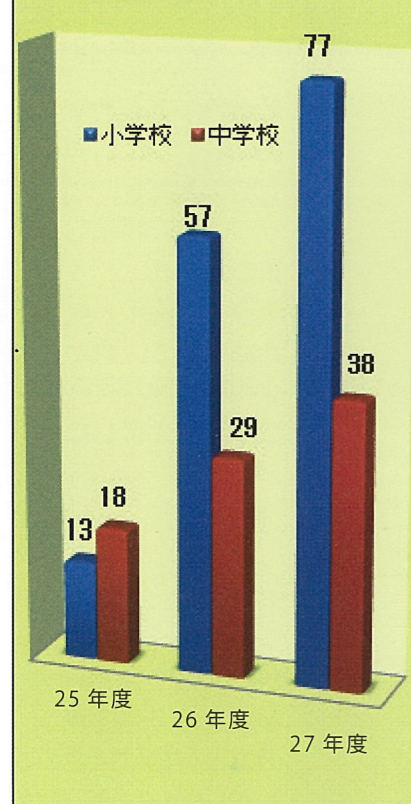
- ・公開授業や学習発表会

■通常の教科等の授業

- ・補充・発展的な学習や個別指導の充実に重点を置いた指導
- ・学年の実態に応じた学年単位の授業

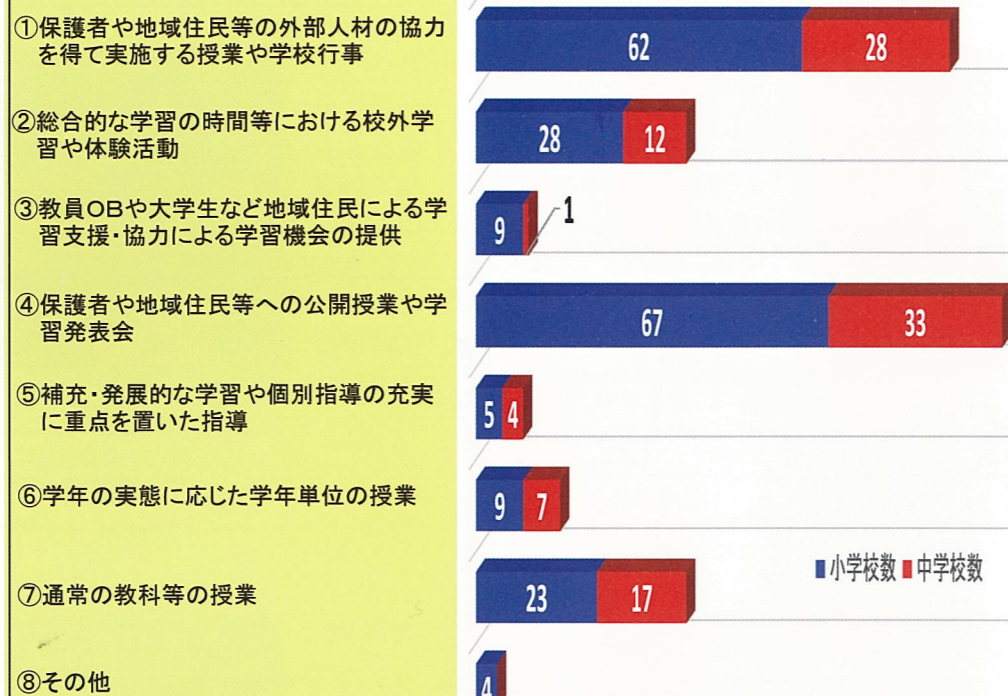
本県における土曜授業の実施状況

土曜授業実施校数の推移



土曜授業の内容

(平成27年度土曜授業実施予定状況調査から)



- 成果**
- ①地域の特色を生かした教育と学力向上を両立させることができました。
 - ②授業時数を土曜日に分散させた結果、教師が子どもと向き合う時間が増えました。
 - ③アンケートには、「土曜日だと授業参観に来やすい。」という保護者の意見が多く寄せられました。



- 課題**
- ①地域行事等との日程調整が難しいです。
 - ②学校週5日制のリズムが崩れることが心配されます。
 - ③教員の勤務体制の調整が難しいです。



実施上の留意点 (平成25年1月の県教育委員会通知から)

- (1) 実施回数は、学校週5日制を踏まえ、児童生徒の身体的負担等を考慮し、月2回以内が適切であること。
- (2) 実施時間は、原則として土曜日の半日単位とし、やむを得ず終日に及ぶ場合は、振替休業日を設けるなど児童生徒の身体的負担等に配慮すること。
- (3) 域内において現に実施されている社会教育団体やスポーツ団体等の事業・行事等に配慮すること。
- (4) 校内の指導体制を確立するとともに、教育指導計画等に位置付けること。
- (5) 教職員の勤務については、「熊本県市町村立学校職員の勤務時間及び休日休暇に関する条例」により、適切に週休日の振替等を行うこと。

土曜授業Q & A

Q1

土曜授業のねらいは何でしょうか。

子どもたちは、地域の方の協力を得ながら、体験活動等の多様な学習活動を行うことができます。また、これまで平日に行っていた授業を土曜日に実施することで、平日の放課後にゆとりができ、子どもたちが先生と関わる時間が増えたり、補充的な学習等のきめ細かな指導の機会を得られたりするなど、より豊かな教育環境が提供できます。

Q2

土曜授業では、どのような学習内容が適切でしょうか？

平成27年2月の県教育委員会通知の学習内容例を参考に、授業のねらい、児童生徒や地域の実態、土曜日等に実施することの利点等を踏まえて実施してください。

Q3

地域人材を効果的に活用するには、どのようにすればよいでしょうか？

学校支援地域本部や熊本版コミュニティ・スクールの協議会の委員、又はコーディネーター等の調整する人材を活用する方法も考えられます。

Q4

土曜授業を計画し、学校職員に勤務を命ずる場合、週休日の振替はどのように行えばよいでしょうか。

通常、週休日の振替は勤務日の前4週間、後8週間の期間内に行うことになっていますが、土曜授業を行う学校において、土曜日に勤務を命ずる必要がある場合には、当該土曜日を起算日とする前8週間、後16週間の期間内に週休日の振替が行えるよう規則の一部が改正されました。

(平成25年3月19日付け教人第1497号通知より)

お問い合わせ先

熊本県教育庁教育指導局義務教育課

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

TEL: 096-333-2688 / FAX: 096-385-6718

<http://kyouiku.higo.ed.jp/>